

科目名	母性看護学	単位(時間)	5(170)	28・29期生	DP	
担当講師名	専任教員 他			1～2年次	1・2・3・4	
科目設定理由	<p>近年、社会状況の変化から、女性の「子を産み、子を育てる」ことの価値観、生命誕生にかかわる倫理観や性の概念は多様化し、これに伴い女性を取り巻く環境も変化している。</p> <p>母性看護学概論では、時代の変化とともに変容している女性の役割や健康問題、統計的指標の推移や母子保健施策の変遷を知り、リプロダクティブヘルス/ライツの理念に基づいた支援の在り方を学ぶ。また、援助の基盤となる概念や理論、母性看護の役割を学ぶ。</p> <p>母性看護学援助論では、生理的な変化である妊娠・分娩にかかわる母体の健康と、胎児の発育・新生児の成長との関連を理解し、親になる過程と新しい家族を迎えて変化していく家族への支援を学ぶ。また、対象をウェルネス視点で捉え、母子の状態に沿ったより良い経過をたどるための看護の必要性を理解し、その看護展開の方法を学ぶ。</p>					
科目構成	科目名	母性看護学概論	母性看護学援助論Ⅰ	母性看護学援助論Ⅱ		
	単位時間	1単位 20時間	1単位 30時間	1単位 30時間		
	学習範囲	1. 母性看護の基盤となる概念 2. 性と生殖の健康と権利 3. ライフサイクル各期およびリプロダクティブヘルスにおける看護 4. 母性を取り巻く環境と必要な支援	1. 妊娠期の看護 2. 分娩期の看護 3. 新生児期の経過と看護 4. 妊娠期・分娩期の異常経過 5. ハイリスクの看護 6. 妊娠・分娩期の看護技術	1. 産褥期の看護 2. ウェルネスの視点で考える母子の看護		
	科目名	母性看護学実習				
	単位時間	2単位 90時間				
実習のねらい	<p>母性看護学実習では、心身の変化が著しく容易に正常から逸脱を起こしやすいという特徴を持つ周産期の対象への、逸脱を予防する看護や、健康レベル・セルフケア能力の高い対象へのエンパワメントの援助を学びます。また、尊い命を育む対象の思いに寄り添い、取り巻く環境にも関心を向け、母子関係の確立のための看護を実践(探求)する体験から、家族の再構築や親になる過程を支える看護を学びます。</p> <p>周産期の母子は心身の変化が著しく、容易に正常から逸脱を起こしやすいという特徴があります。そのため対象の身体的・精神的な特徴を理解し、正常な経過を捉える観察や正常からの逸脱を予防する援助、セルフケアに向けた指導など、日々の変化に応じた看護が求められます。五感を用いて母子一体を観察し、命を育む対象の思いに寄り添い尊重しながら援助を実践していきましょう。そして、対象を取り巻く環境にも関心を向け、より良い健康状態へ向けて対象が自ら行動できるよう、対象の強みを活かした支援を考えていきましょう。また母子関係の確立のために母子相互作用が深まるよう看護を探求し、ウェルネスの意味をふまえ、親になる過程を支える援助と社会資源の活用について考えていきましょう。</p> <p>産科外来実習では、妊婦とその胎児に対するより良い経過をたどるための支援や、安心して出産に臨むための支援を見学し、妊娠期からの心身の変化についての理解を深めましょう。また、妊娠期から産褥期まで継続した母子一体の看護と、親になる過程への理解を深めていきましょう。</p> <p>新生児科病棟実習では、患児と家族に行われている援助の見学をとおして、母子分離にある対象への母子関係確立に向けた看護を学びましょう。</p> <p>実習をとおして、皆さんも尊い命を持った一人の人として自分自身を大切にできる心と、自己の母性観・父性観を育んでいきましょう。</p>					
学習を支える情報	1. 母性看護学は周産期にある対象の看護だけでなく、他の看護学でも関わる全ライフステージの女性の人生の体験としてとらえ、性と生殖に関する健康とその看護について学習していきましょう。 2. 母性看護学を学ぶ上での基礎となる科目に、病態と治療Ⅲ、保健医療福祉論、関係法規、生命倫理があります。関連付けて学習を深めましょう。 3. 厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/index.html や、政府の統計窓口「e-Stat」 https://www.e-stat.go.jp/ なども活用して学習を進めていきましょう。					